

MBTコンソーシアムの成果

部会活動紹介①

2018年11月2日

■見守り支援部会<リーダー:西田隆司(富士通株)>

「妊娠時からの子育て世代包括見守り」の実証実験を 橿原市・奈良医大・富士通(株)の三者で開始



第一部会では、橿原市、奈良医大、富士通の3者による「妊娠時からの子育て世代包括見守り」の実証実験を、2018年11月より2019年2月までの期間で実施します。

本実証は、妊産婦に対して積極的な見守りを実施しご家族を含め様々な相談を受けることで、安心して出産や子育てをしていただくとともに、体調や子育て環境等の変化をいち早く検知することで、子育てに関する深刻な状況(産後うつ、虐待など)の予防や社会的支援につながる可能性を検証する目的で実施しています。

具体的には、看護師等の専門職が24時間常駐している富士通のコールセンターが、電話やLINEで寄せられる妊産婦やご家族等からの相談に対応したり、定期的にコールセンター側から連絡いたします。また、その状況が奈良医大の産婦人科や橿原市と共有されるものです。

今回は、奈良医大付属病院に通院中または退院後1年以内かつ、橿原市在住の妊産婦約120余名を対象としています。

実施にあたり、2018年11月2日に森下市長、細井理事長・学長、小林産婦人科学教授、及び西田部会リーダーが覚書を交わし、その模様が活動内容と共にNHK全国ニュースで放送されました。



■MBTコロナウイルス不活性化分科会

世界初、オゾンによる新型コロナウイルス不活性化を確認

新型コロナウイルスは微少な飛沫の付着や空中に漂うエアロゾルとなって人から人への感染が拡大していると考えられます。

奈良県立医大微生物感染症学講座の矢野純一教授、および感染症センターの笠原敬病院教授は、MBTコンソーシアム会員のクオール(株)、(株)タムラテコ、



三友商事(株)、丸三製薬バイオ容器に塗布した新型コロナウイルスに、所定の濃度と時間条件の下で、オゾンガスを暴露することで、ウイルス量が1/1000~1/10000まで不活性化することを、世界で初めて確認しました。

記者発表後、問い合わせが国内43社からあり、やまと真空工業(株)/奈良県香芝市とは、抗ウイルスマスクの研究を開始しました。抗菌加工がされているマスク表面の不織布等に塗布した新型コロナウイルスを2時間で1/1000まで不活性化することが確認され、今後の製品化が期待されます。

■MBTコロナ不活化分科会報告

柿タンニン（柿渋）による新型コロナウイルス不活化

奈良医大伊藤教授（免疫学）と矢野教授（微生物感染症学）は、唾液で希釈されたウイルス液に柿タンニン(柿渋)が混ざることによって、ウイルスが1/10000まで不活性化することを、世界で初めてののに よる新型コロナウイルスの不活化を確認しました。その後、共同で製品化を進める企業を公募したところ、国内48社から問い合わせが寄せがあり、具体的提案書が提出されてきた19社(食品9社、非食品10社)との協議を進めています。今後、研究開発の合意ができた企業から、柿タンニンを活用した食品、非食品の開発や試作を進め、その評価を行い、製品化を目指すこととなります。

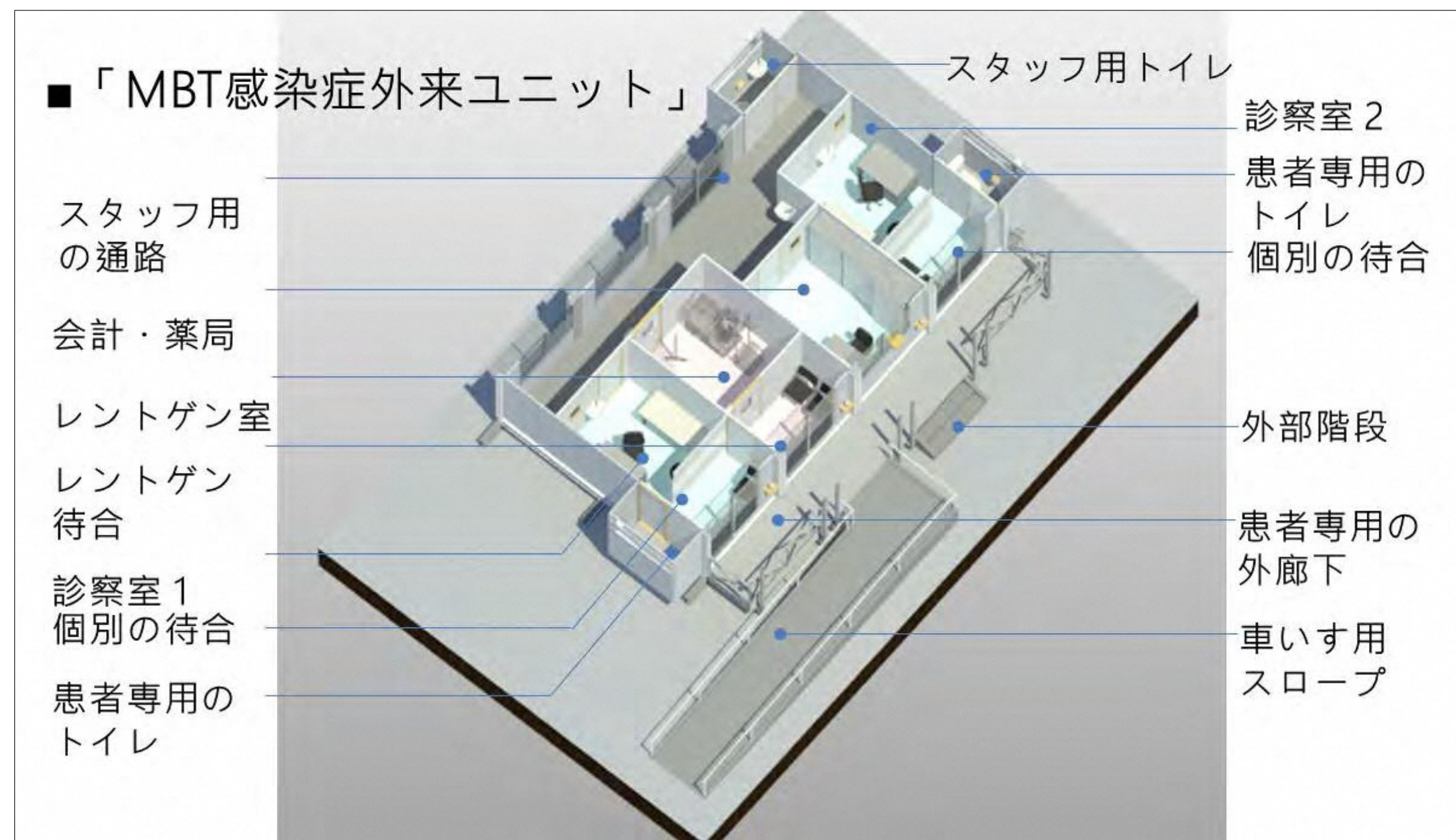


■MBT感染症外来分科会

医療現場の安全確保 「MBT感染症外来ユニット」の提案

医療従事者の安全・安心確保や医療現場の崩壊を防ぐために、新型コロナウイルス感染が疑われる外来患者を、通常の外来患者と切り離して診察ができる感染症外来ユニットの必要急務が予測されました。

そこで、笠原敬病院教授（奈良医大感染症センター）と、MBTコンソーシ



アム会員の、大和ハウス工業(株)、大和リース(株)、(株)内藤建築事務所が連携して、最新のICTや医療技術、コロナ不活化アイデアや、インフラ技術を盛り込んだ「MBT感染症外来ユニット」の提案書を作成しました。本提案内容も取り込んだ発熱外来ユニットが5月下旬に奈良西和医療センター、奈良市医師会館において稼働しています。

■生体波形をチェックする国内初スマホナースコール「Safety Net-MBT」

血中酸素飽和度 (SpO2)や心電図、心拍数などの生体波形をスマホ画面で確認し、患者の様態を見守ることができる国内初のナースコールシステム“Safety Net-MBT”を日新電設(株)および国内を代表する医療機器メーカーの(株)ケアコム、マシモジャパン(株)、日本光電工業(株)、フクダ電子(株)と共同で開発し、本年4月から奈良医大附属病院に導入開始しました。

本システムを活用すれば、看護師がベッドサイドにいなくても患者の生体異常を速やかに医療者に通知ができ、急速に呼吸状態が悪化することがある新型コロナウイルス治療にも大きな役割が果たせると考えられます。



■奈良市・もちいどの商店街におけるコロナ対策にかかる助言

・東大寺二月堂お水取りのコロナ対策相談を行う中から、奈良の観光に関わる地域全体がコロナ対策を正しく理解し、安心・安全な環境対策を実施して観光客をお迎えしたい、との気運が高まり、東大寺に近い餅飯殿センター街からコロナ対策相談が寄せられて実現したものです。

・当日は、商店主15人が夜の7時からセンター街集会所に集まり、奈良医大感染症センター：笠原敬病院教授から“コロナ対策の基本について”の講義を受けました（右写真）。



・続いて、一緒に商店街を歩き、①革製品販売店（写真①）、②かまぼこ販売店（写真②）、③スーパーマーケット（写真③）の店内で、コロナ対策の助言を受けると共に、その必要な背景や対策案の説明を受けました。

・身近な問題としてとらえた参加者からは、移動中や集会所の質疑の時間に熱心な質問が飛び、充実したコロナ相談が夜遅くまで続きました。

